

埼玉県川口市立南中学校

学校長 松原 誠

本校は、川口市の南部荒川の河川敷に位置し、創立68年目の伝統校である。学級数は18クラス、生徒数は700名規模の中学校である。新築校舎のため、重層の体育棟にはアリーナ、武道場、部室などがあり、グラウンドも広く、市内屈指の体育施設を保有している。学校選択制による入学者希望は市内で最も多く、他学区からの生徒も多く在籍している。生徒は比較的落ち着いた生活を送っている。部活動も活発で、どの部も競い合っていて活動している。また、体育的行事も充実しており過去には、毎日カップ中学校体カづくりコンテストで文部科学大臣賞を2度受賞している。

メールマガジン続き

また、敷地内に幼稚園、小学校含み、舟戸学園として、幼小中学校間連携教育を推進している。昨年度より近隣の小学校も含め、1園3校での取り組みに力を入れている。連携教育で部会も開き、体力部では、中学生が下級生に指導する場面も近年増えており、学び方や、授業規律を含め自ら体力向上に向けて、中1ギャップの無いように、入学後も無理なく授業に入れるようにしている。本校における今年度の体育科として意識を高めていることは、規律面の徹底から見直しており、集団行動、体操、補強運動など凡事徹底の意識を高めて、部活動や習慣的にトレーニング出来るブースを設けている。

体育科として授業で目指す生徒像

- ・リーダーとしての人間育成
- ・学び方を身につけ、授業規律を守り、安全に学習する生徒
- ・自ら体力の向上に努め、互いに協力し、助け合いながら授業に取り組み、積極的に学習できる生徒
- ・運動のよさを知り、運動する喜びを味わい、生涯にわたって活用できる生徒
- ・自らの健康に関心を持ち、集団の健康を保持・増進させることに寄与できる生徒
- ・授業のねらいを正しく理解しながら、授業の効果を適切に評価できる生徒

～連携教育関係～

体力部

1 ねらい

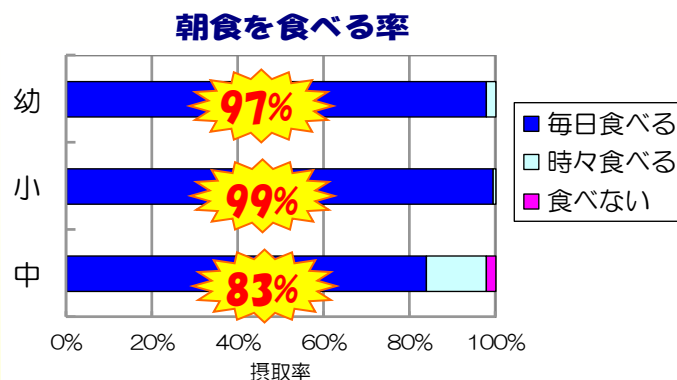
コミュニケーション能力を向上させることや地域・家庭との連携を通して、効率的に体力の向上や健康の保持増進を図る。

2 仮説

あそび、授業、行事において、人との関わりを大切にしながら学び合いを充実させていけば、豊かなコミュニケーション能力が育成されるであろう。

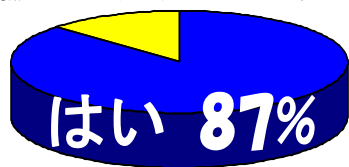
3 子どもの実態

- 体力面 新体力テストの結果より小学校期の走力（持久力）、投力に課題が見られる。
- 健康面 朝食を毎日食べる子どもは約94%であり、摂取率が高いといえる。
- 体育的連携への関心 授業や行事で幼・小・中で関わりたい気持ちが高い。



小学生の体育的連携への関心についてのアンケート結果

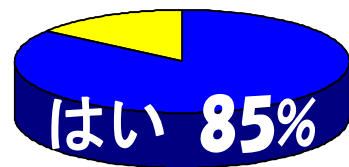
持久走大会で、幼稚園児や中学生に応援してもらとうれしいですか。



幼稚園児や中学生と大声大会のようなイベントをやりたいですか。

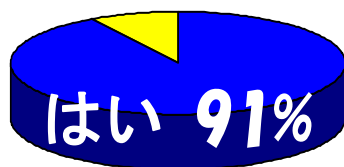


中学生と一緒に体育の授業をしてみたいですか。

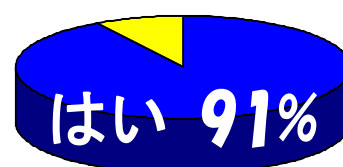


幼稚園児の体育的連携への関心についてのアンケート結果

中学生と遊ぶのは楽しいですか。



小学生と遊ぶのは楽しいですか。



4 手だて

体力部を3つの専門班（授業班、保健班、交流班）に分けて研究する。

- (1) 授業班…幼児から中学生まで異年齢間の、学び合いを含めたコミュニケーションの機会の増加を通して
 - ①小中合同授業による学習過程・学習形態の工夫
 - ②授業分析による検証 ◇教師の言葉かけの分析 ◇形成的授業評価
- (2) 保健班…小中合同学校保健委員会の実施。朝食摂取率向上の取組。保護者に食育に関わる講演会の実施、その後の家庭内の会話・活用の追跡調査。
- (3) 交流班…交流や健康の保持増進をねらいとした行事の企画と交流活動の通年化
 - ①舟戸学園なわとびクラブの実践
 - ②幼小なわ遊びの交流
 - ③舟戸学園大声大会の実施

<連携行事>

- 部活の体験入部・部活見学・小中で年間指導計画をそろえる
- 大声大会・検定関係もそろえる・南中ストレッチ
- 模範水泳・合同授業・朝ランニング

